

片山資料①

古人骨から解読できる事項——骨で調べる古代人の生きざま死にざま

1. 性別（各骨の性差）
2. 死亡年齢（骨年齢および歯年齢）
3. 顔かたち（頭蓋骨の特徴）
4. 身長、体格、プロポーション（各体肢骨の特徴）
5. 日常生活活動、特殊労働、習慣的姿勢など（生活痕）
6. 骨折歴（骨折痕）
7. 整形外科的骨疾患（関節周辺の変形など）
8. 代謝疾患、感染性疾患、先天性疾患など（各種疾病痕）
9. 老人科関係の骨疾患（骨粗鬆、骨棘形成、骨萎縮など）
10. 歯科疾患（病歯痕）
11. 歯牙の特殊使用（異常咬耗）
12. 発育不全、栄養失調歴（エナメル質減形成、ハリス線など）
13. 骨受傷歴（切創、刺創、斬創などの痕跡、刺入痕など）
14. 死傷痕の態様、あるいは死因（死亡前後の受傷痕）
15. 食物内容と調理方法（微咬耗痕、咬耗度など）
16. タンパク質の摂取源（安定同位体分析、微量元素分析）
17. 産児歴（妊娠痕あるいは出産痕）
18. 利き腕（肩関節など）
19. ABO式血液型（熱解離試験）
20. 埋葬風習や埋葬儀礼（骨格の配置、受焼の有無など）
21. 頭蓋変形や抜歯など身体加工風習（事例比較）
22. 生存年代（AMS放射性炭素年代測定）
23. 個体間の血縁関係（歯の形態の類似性、ミトコンドリアDNA型分析など）
24. 集団間の類似性（形態小変異の分析など）
25. 平均死亡年齢など人口学的な指標（死亡年齢の分析など）
26. 個人識別？（骨折歴、歯の治療痕、ミトコンドリアDNA型分析）

※（ ）で示すのは、骨から情報を解読するときのポイント、あるいは分析方法。